



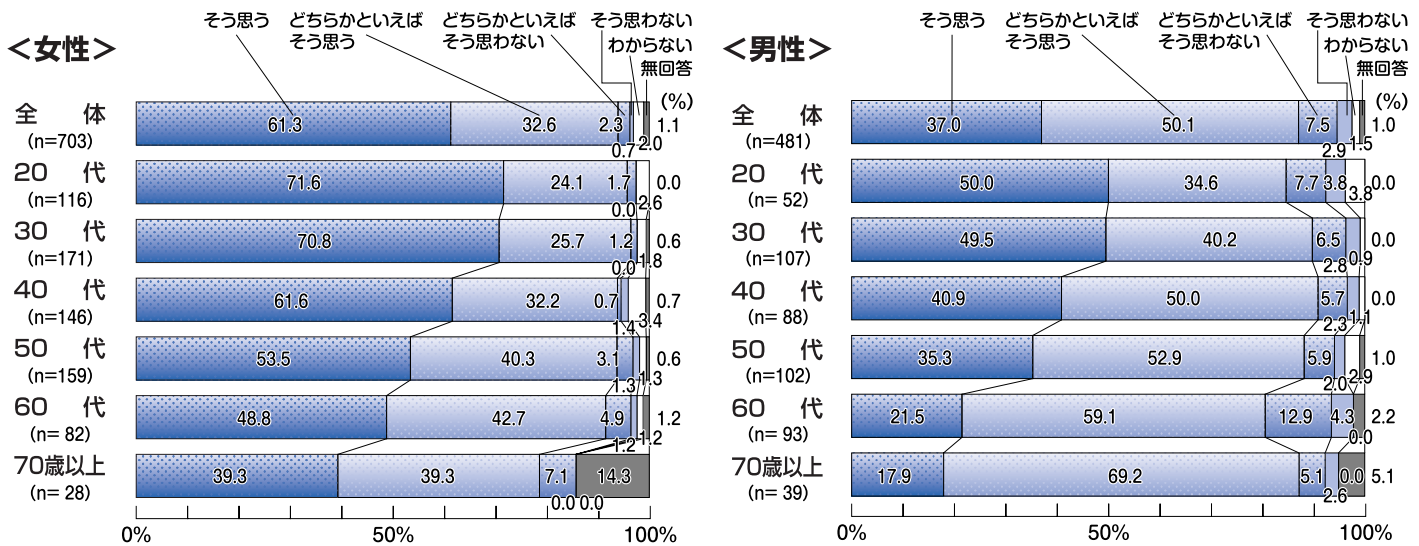
## ● 育児に対する考え方

「男親はもっと育児に参加すべきである」という考え方については、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせると、全体の9割が賛成しています。男女別では、どちらも、年代が若くなるほど「そう思う」人の割合は高くなっており、男性の育児参加への意識は、若い世代に少しずつ広まりつつあるようです。しかし、男性の生活時間をみると、1日の中で家事・育児・介護に費やす時間は平均で40分となっ

ており、現実には育児参加があまり進んでいないようです。その原因としては、「育児は母親の役割」という固定的な性別役割分業意識が根強いことや、子育て世代の男性の長時間労働といった厳しい労働環境などが考えられます。

男性も女性も、子育てを担うことで初めて親になると言えます。男性が育児参加できるような環境や意識づくりを進めていきましょう。

### 男親はもっと育児に参加すべきである（性・年代別）



## ● 女性と仕事

女性の就労の状況はどうでしょう。調査結果では、女性の半数が働いており、その働き方を見てみると、未婚の女性では、正社員・正職員などの正規雇用が約6割、パート・アルバイト・派遣などの非正規雇用が約3割でした。これに対して、既婚の女性では、正規雇用が約3割、非正規雇用が約6割と逆転しており、結婚しているかないかで働き方が大きく異なることがわかります。これは、女性が結婚・出産などで退職することが多く、また、再就職の際、正規雇用での就労が難しいことなどが背景にあると考えられます。

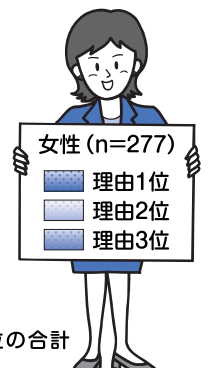
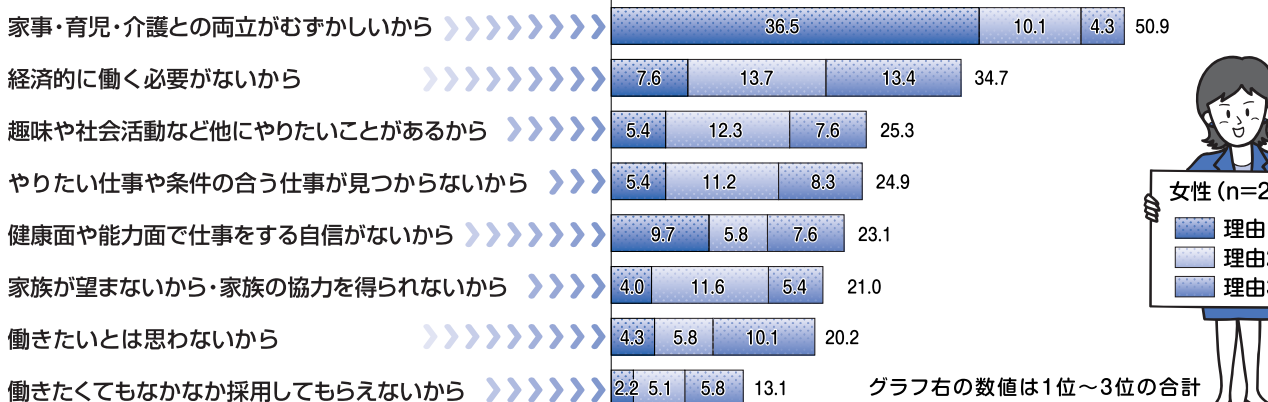
一方、専業主婦など無職の女性に、今後働きたいかを尋ねたところ、約6割が働きたいと答えていま

す。これを年代別に見ると、30代の女性では今後働きたいという人が約9割にも及び、潜在的労働力が大きいことが推測できます。

では、働きたいと思いながら働いていないのはなぜでしょうか。同じく無職の女性に働いていない理由を聞いたところ、過半数が「家事・育児・介護との両立がむずかしい」を挙げ、約4割がこれを第1の理由としています。このことから、家庭のことは自分の仕事という役割意識に縛られて、働きたくても働けないという女性たちの状況が伺えます。

働きたいと思う女性が結婚や出産などに関わりなく働き続けられるようにするには、仕事と家庭が両立できる環境を整えていくことが必要です。

### 働いていない理由 (1位~3位の複数回答 / 無職:女性)



## 国の取組

# 男女共同参画基本計画(第2次)が決定しました

国では、男女共同参画社会づくりに向けたこれまでの取組を見直し、平成17年12月に男女共同参画基本計画(第2次)を閣議決定しました。計画には、今後の施策の基本的方向性と、平成18年度～平成22年度に実施する具体的施策が挙げられています。

## 男女共同参画基本計画(第2次)の主なポイント

- 政策・方針決定過程への女性の参画の拡大
  - ・あらゆる分野において指導的地位に女性が占める割合を、2020年までに少なくとも30%程度にする
- 女性のチャレンジ支援
  - ・一旦家庭に入った女性の再チャレンジ(再就職、起業等)支援策を充実
- 男女雇用機会均等の推進
- 仕事と家庭・地域生活の両立支援と働き方の見直し
  - ・男性も含めた働き方の見直しを大幅かつ具体的に推進
  - ・育児休業取得率を、概ね平成26年度までに、男性10%、女性80%にする(平成16年度現在で男性0.56%、女性70.6%)
- 新たな取組を必要とする分野(科学技術、防災、地域おこし・まちづくり・観光、環境)における男女共同参画の推進
- 男女の性差に応じた的確な医療の推進
- 男性にとっての男女共同参画社会の意義等を重視した広報・啓発
  - ・「男女共同参画社会」という用語の周知度を、平成22年度までに100%にする(平成16年現在52.5%)
- 男女平等を推進する教育・学習の充実
- 女性に対するあらゆる暴力の根絶
- あらゆる分野において男女共同参画の視点に立って関連施策を立案・実施し男女共同参画社会の実現を目指す

(内閣府男女共同参画局「男女共同参画基本計画(第2次)」より)



### 「男女共同参画社会」という用語の認知度

—浦安の場合—

「男女共同参画社会」という言葉について聞いたところ、「詳しく知っていた」「大体的内容を知っていた」を合わせると、浦安市ではその認知度は4割程度でした。(平成18年浦安市「男女共同参画社会づくりに関する市民意識調査報告書」より)

## Key Word

### 社会的性別(ジェンダー)

これまで誤解や混乱を招くことの多かった「社会的性別(ジェンダー)」。国民に正しく理解してもらうため、男女共同参画基本計画(第2次)では次のように定義しています。『人間には生まれつきの生物学的性別(セックス)がある。一方、社会通念や慣習の中には、社会によって作り上げられた「男性像」、「女性像」があり、このような男性、女性の別を「社会的性別(ジェンダー)」と言う。「社会的性別」は、それ自体に良い、悪いの価値を

含むものではなく、国際的にも使われている。』

「男だから、女だから」というように性別にとらわれることなく、誰もが自らの意思によって多様な生き方を選択できることが、男女共同参画社会の理念です。そのような社会にしていくためには、私たち一人ひとりが、社会的性別(ジェンダー)にとらわれていないか日ごろから意識していくことが大切です。



## Book Guide

ブックガイド



### 未妊 「産む」と決められない

河合蘭著 日本放送出版協会

依然として進む少子化。そこには女性たちの晩婚・晩産化が一つの要因としてある。女性たちはなぜ「出産を引き伸ばそう」とするのか。データだけではわからない本当の理由を、女性たちの生の声を聞きながら丹念に探っていく。現代の女性たちがなかなか出産できない背景にあるのは、女性自身が産むと決められない事情があるという。少子化のみならず、「産む」ということについて改めて考えさせてくれます。



### 定年漂流

西田小夜子 小学館

「団塊の世代」と呼ばれる人たちが定年を迎えることをめぐって「2007年問題」という言葉が生まれるほど、今定年後の生き方が問われています。会社人間だった夫が家庭に戻ってきた時、夫は、妻は、何を感じどう生きたいと思うのか。「定年漂流」に描かれた様々な夫婦の有り様は、思い悩むあなたに大きなヒントと勇気を与えてくれます。定年には程遠いという若い人にも、将来に向けた夫婦のよりよい関係づくり役に役立つ一冊です。

## Event & Service

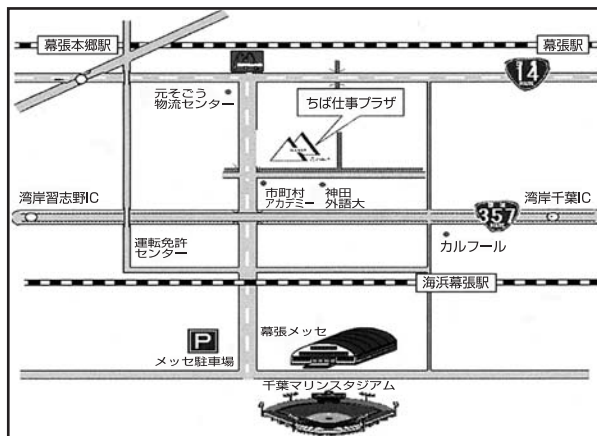
イベント&サービス

### 子育てお母さん 再就職支援センター

7/25  
OPEN

千葉県には、12歳未満の子どもを持ちながら、再就職を希望している女性は約11万人いると推定されています。そうした女性たちの再就職支援のための拠点として「子育てお母さん再就職支援センター」が、7月25日(火)に、千葉市幕張地区の県「ちば仕事プラザ」内にオープンします。センターでは、キャリアコンサルタントがあなたの再就職をサポートします。また、マザーズハローワーク千葉幕張ランチが併設され、求人情報の検索もできることになっています。「そろそろ再就職をしたいけれど何から始めたらいいのかしら。」「今すぐには無理だけどいずれは就職したい…」と考えているあなた、まずはセンターに足を運んでみませんか。相談は無料で、予約制(☎043-273-4510)です。詳しくは県民だより7月5日号、ホームページ(<http://www.techpyra.jp/>)をご覧ください。

所在地：千葉市美浜区幕張西4-1-10  
問い合わせ：ちば仕事プラザ  
☎043-273-4510



## 浦安市女性プラザ



- 困っていること、悩みごとがあったら・・・  
「女性のための相談」(予約制)  
第1～4月・火・木曜日(10:00～16:00)  
(但し、うち3回は14:00～20:00)  
「女性のための法律相談」(予約制)月2回  
\*詳細・予約は女性プラザまでお問い合わせ下さい。
- 図書の出借をしています。  
\*1人1回3冊まで、2週間貸出しています。

- ★ホームページを開設しています。  
浦安市のホームページ(<http://www.city.urayasu.chiba.jp>)  
「市政情報 男女共同参画」をご覧ください。
- 開所：月～金 8:30～17:00(土日祝休み)  
住所：浦安市猫実1-1-2 浦安市文化会館2F  
電話：047-351-1111(内線1050)  
FAX：047-353-1145  
Mail：urayasu-womensp@jcom.home.ne.jp  
編集・発行：浦安市女性プラザ